

平成25年度

大阪市教育局「学校教育 ICT 活用事業」モデル校

公開授業・研究協議会 資料

平成25年6月19日（水）

大阪市立昭和中学校

平成25年6月19日

参 観 者 の 皆 様

大阪市立昭和中学校
校長 田 積 直 子

平成25年度・大阪市教育局「学校教育ICT活用事業」モデル校

公 開 授 業 ・ 研 究 協 議 会

初夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本日は何かとお忙しいなか、公開授業・研究協議会にご参加いただき、誠にありがとうございます。案内不行き届きの面もあろうかと存じますが、お時間の許す限りご参観くださいますようお願い申し上げます。

記

1 日 時 平成25年6月19日（水） 午後2時25分～5時00分
（受付 午後2時00分から）

2 会 場 大阪市立昭和中学校
大阪市阿倍野区桃ヶ池町2-3-17 電話 06-6621-0051
・地下鉄谷町線「田辺駅」下車 南西へ500m
・JR阪和線「南田辺駅」下車 北へ150m

3 時 程

午後2時00分	2:25	3:15	3:30	5:00
受付	公開授業	移動休憩	全体会	
			研究協議	指導講評

4 教 科 ・ 授 業 者

教科	クラス	場所	授業者
保健体育	1年1組、1年2組	体育館	木元 克哉・山田 彩奈
数 学	3年1組	教 室	坂根 眞一郎・井上 昇
道 徳	3年2組	教 室	江唐 しのぶ

5 指導助言

・和歌山大学 准教授 豊田 充崇 先生

参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

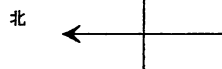
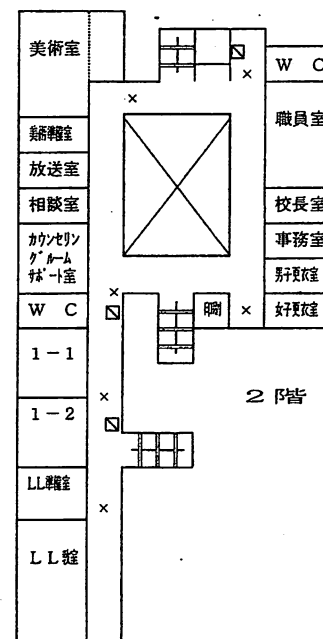
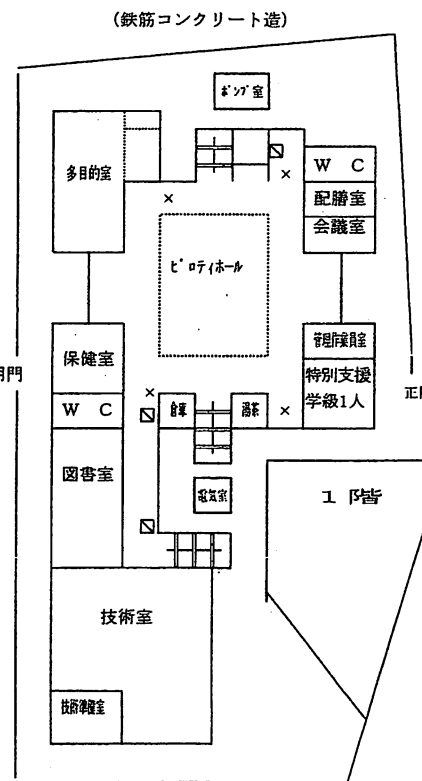
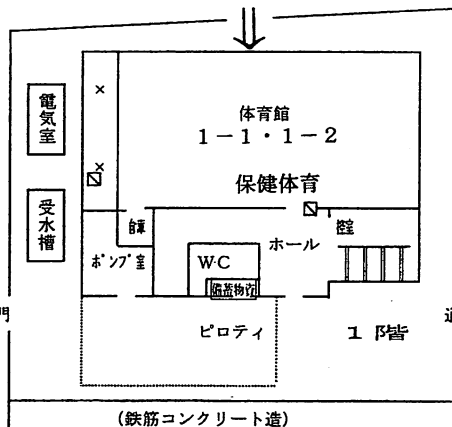
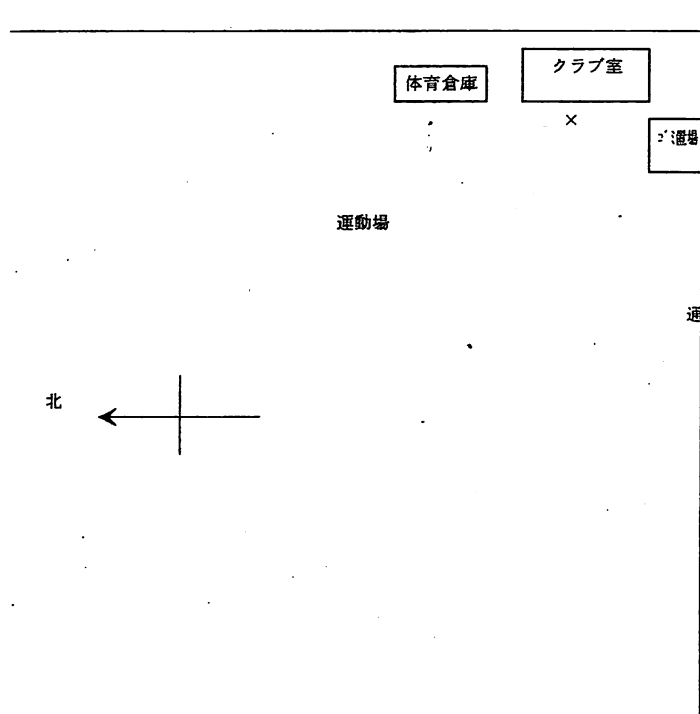
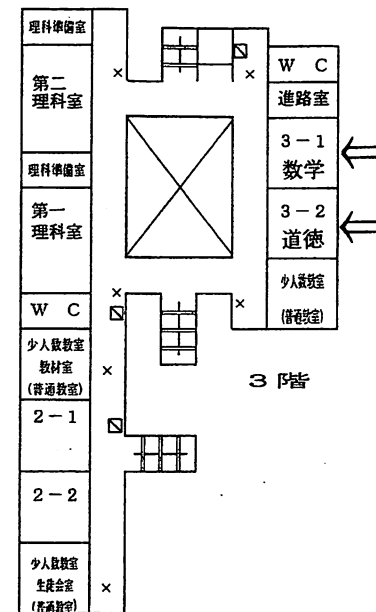
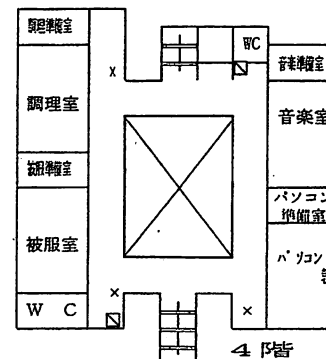
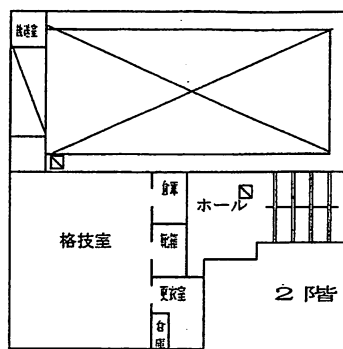
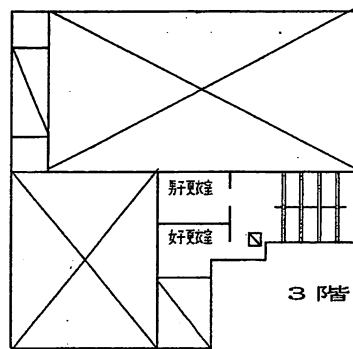
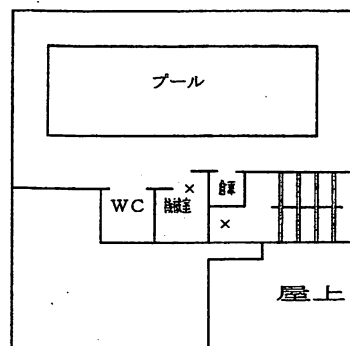
参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、**校内の写真撮影・ビデオ撮影**は、次の点をお守りいただくことを前提に許可します。
 - 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用すること。
 - 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと。これについては、いかなる理由があっても許可できません。
 - 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと。
 - 教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。
2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。
3. 教室はたいへん混み合います。入口付近に固まらず奥にお進みください。
4. 携帯電話はマナーモードにしてください。
5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。
6. 休み時間等では、子ども達の動線にお心遣いください。

大阪市立昭和中学校 校舎使用状況図

□ 消火栓
× 消火器



大阪市立昭和中学校

《ICT の活用》

授業の場所	☐ 普通教室 ☐ 特別教室 ☒ 体育館 ☐ 運動場 ☐ その他（ ）
授業形態	☐ 講義形式 ☐ 一斉学習 ☒ グループ学習 ☐ 個別学習
ICT 活用の場面	☐ 導 入 ☒ 展 開 ☐ まとめ
ICT 活用者	☒ 指導者 ☒ 児童・生徒 ☐ その他（ ）
ICT 活用の目的	☒ 資料の提示(指導者) ☐ 資料の提示(学習者) ☐ 自分の考えをまとめる ☐ グループの考えをまとめる ☐ 他者との考えの比較・交流 ☐ 学習内容を調べる ☐ 自分の考えを表現する ☒ 学習の振り返り ☒ 記録(写真・動画等) ☐ プレゼンテーション等の作成
活用機器	☒ 電子黒板 ☐ 指導者用タブレット端末(win・iPad) ☒ 児童・生徒用(win・ <u>iPad</u>) ☐ その他（ ）
活用コンテンツ	☐ 学習探検ナビ ☐ 動画再生ソフト
ICT 活用のポイント	☐ 電子黒板を使用し、手本のフォームを確認する。 ☐ 電子黒板を使用し、手本と失敗例のフォームを比較し、ポイントを確認する。 ☐ iPad を使用し、グループで協力しながら撮影する。 ☐ iPad で撮影した自分の動画と手本の動画を比較し、グループでお互いのフォームについて確認する。 ☐ iPad で撮影した動画を電子黒板に映し全員で確認する。

第1学年 保健体育科 学習指導案

授業者 木元 克哉
山田 彩奈

1 学年・組 1年 1・2組

2 単 元 名 陸上競技「走り高跳び」

3 目 標

- 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技 能	知識・理解
○授業の進行などで割り当てられたり分担したりした役割に積極的に取り組もうとする。 ○仲間と課題を共有して助け合ったり教え合ったりすることに自主的に取り組もうとする。	○安全に留意して活動することができる。 ○課題の解決に向けた活動内容を行っている。 ○適切な自己評価を行い、他者からの評価を自己評価にいかしている。	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率の良い動きを身につけている。 ○振り上げ足をしっかり上げ、3点着地でベリーロールができる。	○技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける。 ○課題に応じた練習方法を選択する。 ○ルール、計測の仕方や競技方法がわかる。

5 指導計画（全 6 時間）

時	主 な 指 導 内 容	ICT 機器
1	オリエンテーション ゴムバーを使ってベリーロールのフォームの練習（3点着地、振り上げ足）	
2	バーを使ってベリーロールの練習	
3	グループ別でベリーロールの練習	i P a d
4	グループ別でベリーロールの練習（本時）	i P a d 電子黒板 パソコン
5	ベリーロールのフォームテスト	i P a d
6	記録会	

6 本時の学習

(1) 目 標

- 電子黒板や i P a d を使用し、ベリーロールのフォームのポイントについて理解し、習得する。
- i P a d で撮影した自分の動画を見て、自己の課題を見つけ、仲間と教え合い協力して安全に留意しながら課題に取り組むことができる。

(2) 展 開

	主な学習活動・指導上の留意点 (○は学習活動 ●は指導上の留意点を表す)	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○集合、整列 ・四列横隊で体育館前に集合整列する ●体育委員を中心に活動させる ○出欠確認 ・名前を呼ばれたら返事をする ・忘れ物の申告をする ●体育委員が並ばせる ●大きな声で返事をさせる ○挨拶 ・教師の号令で挨拶をする ●教師の号令で「お願いします」と元気づけさせる ○集合 ・体育館に入り集合する ・四列横隊で整列する ●静かに集合させる ●体育委員の号令で整列させる ○準備（補強）運動 ・ランニング 体育館3周 ・ラジオ体操第2 ・腕立て伏せ 10回 ・腹筋 10回			【関心・意欲・態度】 ・整列時、緊張感がある ・名前を呼ばれたら大きな声で返事ができる ・大きな声で挨拶ができる ・気をつけの姿勢ができています ・号令で正しく整列ができています ・二列で前後ペア揃ってランニングができています ・大きな声がでている

○集合 ・各クラス三列縦隊で集合する ●体育委員を中心に活動させる ○フォームの比較 ・電子黒板を使用しフォームを比較する ・仲間の良いところを見る ○グループ別練習② ・グループで協力してiPadでベリーロールの動画を撮影する ・グループごとに撮影した動画を見てそれぞれのフォームについて話し合い、良い点、改善点を知る ○後片付け ・クラスごとに走り高跳びのセットを片づける ●クラスで協力して後片付けをさせる	っている手本の動画を見せる ・iPadで撮影したフォームを電子黒板に映し、ポイントを確認させる ・3グループに分かれて、iPadを使用しグループごとに協力して撮影させる ・グループで集まり撮影した動画と手本の動画が入ったiPadを比較させ、話し合わせる	iPad 電子黒板 パソコン iPad	・3点着地ができている 【思考・判断】 ・周りの安全に留意しながら活動できる 【関心・意欲・態度】 ・整列時、緊張感がある ・前を向いて話を聞いている ・積極的に動画を見ている ・グループで係りを分担している ・グループで積極的に話し合いに参加している ・グループ内で出来ない人に教えている 【技能】 ・ベリーロールを習得している ・適切な助走距離、助走角度を取っている ・3点着地ができている 【思考・判断】 ・周りの安全に留意しながら活動できる 【知識・理解】 ・グループのメンバーに教えることができる ・グループで協力し、お互いに上達することに喜びを体得できる 【関心・意欲・態度】 ・片づけを積極的に行っている
--	---	---	---

まとめ	○集合 ・四列横隊で集合する ●体育委員を中心に活動させる ○まとめ ・iPadと電子黒板を使用してみ て気がついたところを発表する ●iPadと電子黒板を使用することによって気がついたところ、良いところや改善点について感想を言わせる ○次時の予告 ○挨拶 ・教師の号令で挨拶をする ●教師の号令で「ありがとうございました」と元気よく挨拶させる		【関心・意欲・態度】 ・整列時、緊張感がある ・前を向いて話を聞いている 【知識・理解】 ・電子黒板、iPadを活用した目的について理解できる 【関心・意欲・態度】 ・大きな声で挨拶ができる
-----	---	--	---

大阪市立昭和中学校

《ICT の活用》

授業の場所	☒ 普通教室 ☐ 特別教室 ☐ 体育館 ☐ 運動場 ☐ その他()
授業形態	☐ 講義形式 ☐ 一斉学習 ☒ グループ学習 ☒ 個別学習
ICT 活用の場面	☒ 導 入 ☒ 展 開 ☐ まとめ
I C T 活 用 者	☒ 指導者 ☒ 児童・生徒 ☐ その他()
ICT 活用の目的	☒ 資料の提示(指導者) ☐ 資料の提示(学習者) ☒ 自分の考えをまとめる ☒ グループの考えをまとめる ☒ 他者との考えの比較・交流 ☐ 学習内容を調べる ☒ 自分の考えを表現する ☐ 学習の振り返り ☐ 記録(写真・動画等) ☐ プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	☒ 電子黒板 ☒ 指導者用タブレット端末(win・iPad) ☒ 児童・生徒用(win・iPad) ☐ その他()
活用コンテンツ	☐ パワーポイント OSKYMENU (マーカー機能)
ICT活用のポイント	☐ 教材の提示 ☐ i P a dを使って試行錯誤しながら考える ☐ i P a dを使って効率よく自分の考えを発表する ☐ 意見交換しながら班の考えをまとめ発表する ☐ みんなの考えを聞き、自分の考えをまとめる

第3学年 数学科 学習指導案

授業者 坂根 眞一郎
井上 昇

1 学年・組 3年1組

2 単 元 名 数学広場「一筆書きを考えよう」

3 目 標

- じっくりと考えること、順序立てて考えること、試行錯誤しながら考えることなどを通して、論理的に考える力、工夫する力、連想する力など、見通しを持って論理的に考察し、表現する力を伸ばす。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技 能	知識・理解
数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

5 指導計画（全 2 時間）

時	主 な 指 導 内 容	ICT 機器
1	一筆書きできる図形とできない図形を見分ける方法について考える。（本時）	i Pad 電子黒板 ノート PC
2	前時に考えた一筆書きの性質を利用して最短距離の課題を考える。	i Pad 電子黒板 ノート PC

6 本時の学習

(1) 目 標

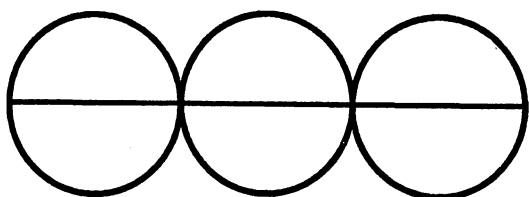
- 課題に興味を持ち、自分なりの予想を立て、積極的に取り組もうとする。
- 条件を見つけるために、「つながり方」に着目して抽象化された「点とそれをむすぶ線」の概念（グラフ化）を利用して一筆書きができる条件を導き出すことができる。

(2) 展 開

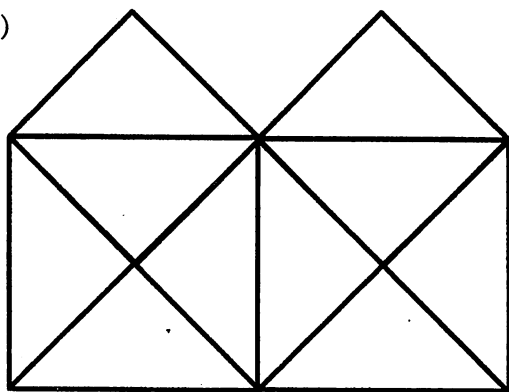
	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ JRの路線図を見せて、一筆書きについて確認する。 ○ ケーニヒスベルグの橋の問題について考える。	・路線図を提示し説明を加える。 ・ケーニヒスベルグの地図を提示し説明を加える。	電子黒板	【関心・意欲・態度】 興味をもって考えることができる。
展 開	○ 実際に簡単な図形について提示し、i Padを使って一筆書きする方法について考える。 ○ グラフ化について学習し、本時の課題に活用する。 ○ いろいろな図形について、一筆書きできるかどうか考える。 ○ 班になって、他のメンバーと相談しながら意見をまとめていく。 ○ できる図形とできない図形の特徴について考える。	・間違えたらすぐ消せるので、試行錯誤しながら考えることができる。 ・iPad を使って、自分の考えを他のメンバーに説明する。 他のメンバーの意見を参考に考えを再構成する。 ・自分の班の考えを電子黒板に映し出して、他の班のメンバーに説明する。	i Pad 電子黒板 SKYMENU	【関心・意欲・態度】 一筆書きができるかどうか判定しようとする。 【数学的な考え方】 いろいろな図形をグラフ化できる。 一筆書きができる条件やその理由を考えることができる。
ま と め	○ 自分たちで、一筆書きの問題を作成し、班以外のメンバーに考えてもらう。 ○ 次時の予告	・自分で作った一筆書きの問題を班以外のメンバーに考えてもらう。	i Pad 電子黒板	【知 識 ・ 理 解】 一筆書きができる条件がわかる。 【 技 能 】 一筆書きができる図形とできない図形を分類できる。

一筆書きに挑戦しよう！

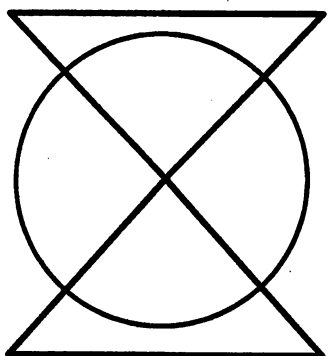
(1)



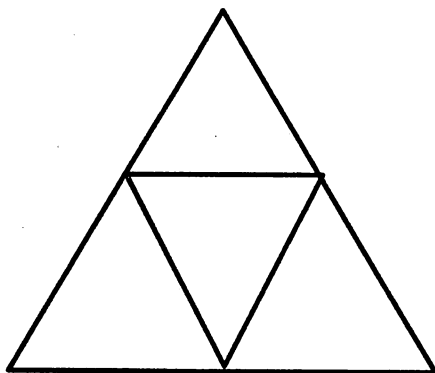
(2)



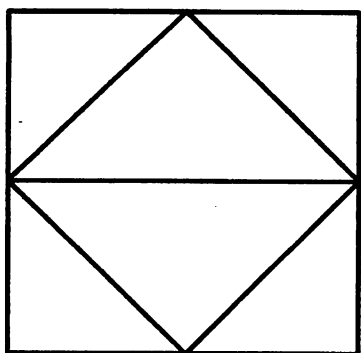
(3)



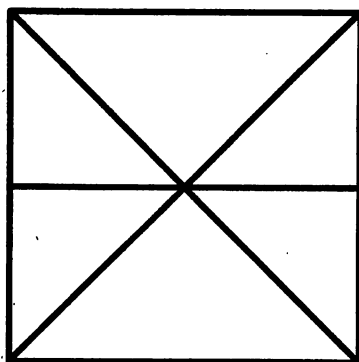
(4)



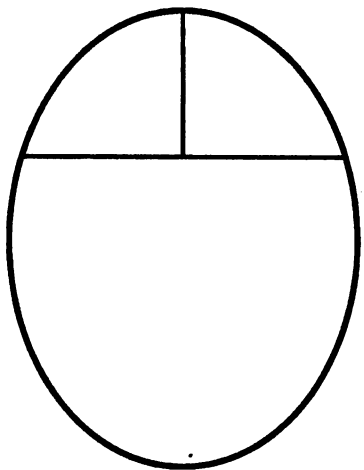
(5)



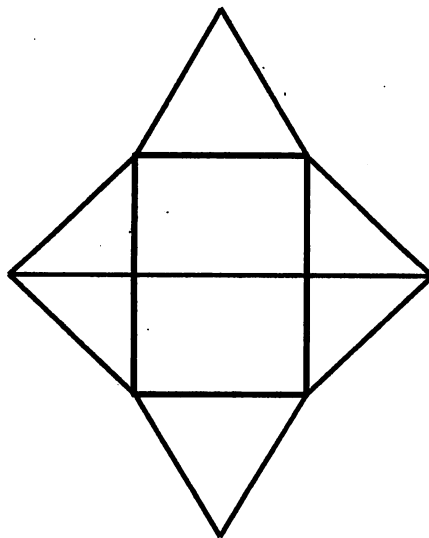
(6)



(7)



(8)



大阪市立昭和中学校

《ICT の活用》

授業の場所	☒ 普通教室 ☐ 特別教室 ☐ 体育館 ☐ 運動場 ☐ その他（ ）
授業形態	☐ 講義形式 ☒ 一斉学習 ☐ グループ学習 ☐ 個別学習
ICT 活用の場面	☒ 導 入 ☒ 展 開 ☒ まとめ
ICT 活 用 者	☒ 指導者 ☒ 児童・生徒 ☐ その他（ ）
ICT 活 用 の 目 的	☒ 資料の提示(指導者) ☒ 資料の提示(学習者) ☒ 自分の考えをまとめる ☐ グループの考えをまとめる ☒ 他者との考えの比較・交流 ☐ 学習内容を調べる ☐ 自分の考えを表現する ☐ 学習の振り返り ☐ 記録(写真・動画等) ☐ プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	☒ 電子黒板 ☒ 指導者用タブレット端末(win・iPad) ☒ 児童・生徒用(win・iPad) ☐ その他（ ）
活 用 コ ン テ ン ツ	☐ iPad ☐ 電子黒板 ☐ appleTV
ICT 活用のポイント	☐ 考えをまとめ、発表し他者と共有するときの時間確保のため ☐ 資料の提示

第3学年 道徳 学習指導案

授業者 江唐 しのぶ

1 学年・組 3年 2組

2 単 元 名 2-(2) 思いやりの心 資料名「あるレストランでのできごと」

3 目 標

○ 人の温かさを知り、他人に対して思いやりの心をもって行動しようとする態度を養う。

4 単元の評価規準

- ・iPad を使用し、自分の意見を表現できる
- ・生徒との心の触れ合いを通じて得られる共感的理解を基盤として、生徒のよりよく生きようとする意欲や努力に目を向けて、一人一人の道徳性を評価する。
- ・生徒のよさや個性を積極的に受け止め、多面的で幅広い視点に立って評価する。

5 指導計画（全1時間）

時	主 な 指 導 内 容	ICT 機器
本時	キャストが、マニュアルに違反してお子様ランチを出したときの気持ちや、家族4人用の席に案内し、子ども用の椅子を出した時の気持ちを考えることを通じて相手の心を察して行動しようとする態度を養う。	・ iPad ・ 電子黒板 ・ appleTV

6 本時の学習

(1) 目 標

○ 人の温かさを知り、他人に対して思いやりの心をもって行動しようとする態度を養う。

(2) 展 開

	主な学習活動・指導者の活動	予測される応答	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	指導上の留意点
導 入	- 接客マニュアルのサンプルを見せる。 「マニュアル」は何のためにあるのか？	- 従業員の仕事をわかりやすくするため - 従業員が勝手なことをしないため	電子黒板で提示する。(指導者)	電子黒板	マニュアルとは・・・「誰にでも同じことができるよう方法を示したもの」
展 開	- 本時の資料名を提示する - 資料の1枚目を配付「キャストは悩んでしまった。」まで範読する。 ◎お子さまランチの注文を受けたとき、キャストはなぜ悩んでしまったのだろうか？	- 予想外の注文でどうしたらいいのかわからない - マニュアルで禁止されているから出せない	iPadに配付された資料を読む(学習者)	iPad	出勤、退出時間の厳守・ゲストに対する態度・言葉使い・身だしなみ・上司の指示を無視しないなどマニュアルは厳しい
	資料の2枚目を範読する。		iPadに配付された資料を読む(学習者)	iPad	
	◎理由を聞いたときなぜ言葉につまったのだろうか？	- 予想していなかった理由だから - マニュアルを守った方がいいのかどうか困った		iPad	
	中心発問 ◎キャストがいつもの笑顔で声をかけたとき、何を考えたのでしょうか？	- マニュアルを守ってさらにゲストを悲しませたくないのだからランチを出そう - 窓の外の3人家族のように「幸せ」になる手伝いをしよう - お客さんの立場にた	- iPadを用いて、自分の意見を送る。(学習者) - 電子黒板に生徒の意見を表示す	電子黒板	- キャストの決心(細やかな心づかい)を考えさせる。 「マニュアル」は、お客様をもてなすために作られたものであり、もてなすために最も必

		って、思いやりの心をもって接した	る。(指導者)		要なことは思いやりであることに気づかせる。
終末	今日の学習で考えたことをiPadで打ち込み、提出する。		iPadで自分の意見をまとめ提出する)。(学習者	iPad	最後の一行は軽くふれるのみにする。

あるレストランでのできごと

東京デイズニールランドは、「夢と魔法の王国」をテーマにしているので、訪れた人みんなに「夢を与え、幸せになつてほしい」と願っている。そのため、お客さんに接する人をみんな「キャスト」と呼んでいる。

「キャスト」と呼ぶのも、来られたすべてのゲスト（お客）の方々に、夢と幸せを与えるキャスト（役者）でありたいという願いからである。

道を尋ねられたり、写真撮影の依頼をされたりしても、常にていねいに対応している。だからこそ、キャストに対する「マニュアル」は厳しい。

東京デイズニールランドの「ワールドバザール」の一角にある人気レストラン「イーストサイド・カフェ」のできごとだ。

そこに若い夫婦がやってきた。新婚ではなさそうで、二人の様子は落ち着いている。そんな二人をキャストは二人用の席に案内し、いつものように注文をとった。

二人は、それぞれが食べるのであろう料理を注文した。キャストは、いつものように注文を確認しようとした時のことだった。女性の方が申し訳なさそうな弱い声で話しかけてきた。

「それと・・・お子さまランチをください。」

キャストは困惑した。

東京デイズニールランドのマニュアルでは、お子さまランチは、九歳未満の子ども以外には出せないことになっていた。

そう言われて、若い夫婦はさみしげな顔で、互いを見つめ合っていた。

キャストは悩んでしまった。

わずかな時間にいろいろ考えた後、キャストは勇気を出して二人に聞いた。

「失礼ですが、どちら様がお子さまランチを召しあがるのでしょうか。」

「今日は、昨年亡くなった娘の誕生日なんです。私の体が弱かったせいで、娘は最初の誕生日を迎えることができませんでした。おなかの中にいるときには、主人と三人で、ここのお子さまランチを食べに行こうねって約束していたのに、それも果たせませんでした……。それで、今日は、娘にお子さまランチを頼んであげたくて、この店に来ました。」

この話を聞いて、キャストは言葉をつまらせた。窓の外では、楽しそうに親子三人で歩く家族の姿が見える。

キャストは迷った末、いつもの笑顔で声をかけた。

「どうぞ、こちらのテーブルへ移動してください。」と二人を別の席に案内した。

大人四人が座れるテーブルだ。そして、その一つのイスを子ども用のイスに取り替えた。まもなく、この夫婦のための料理とお子さまランチが二人に出された。

「どうぞ、ご家族でゆっくりとお楽しみください。」

キャストはそう言って、テーブルをあとにした。

このキャストの行動は、マニュアルを違反している。

しかし、それをとがめたキャストも上司もいなかった。それどころか、この話を仲間にしたところ、誰もがそれに協力して、こころよくお子さまランチを出してくれた。

このキャストの行為は、ほかのキャストにも「こんなよいことをした仲間がいた」と伝えられ、称えられた。

数日後、若い夫婦から感謝の手紙が届いた。

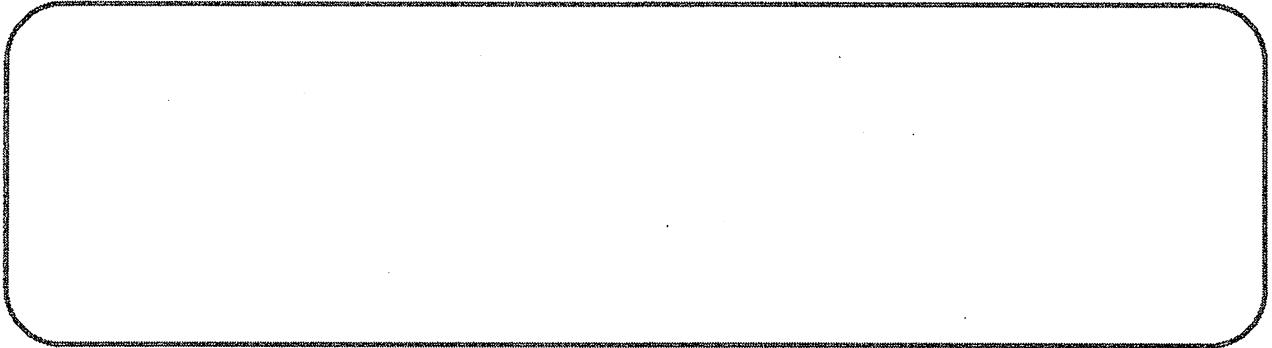
東京デイズニールランドは、それを社内報でキャスト全員に知らせるだけではなく、その手紙も掲示した。

このキャストが九歳以上のゲストにお子さまランチを出したのはあの一回だけである。

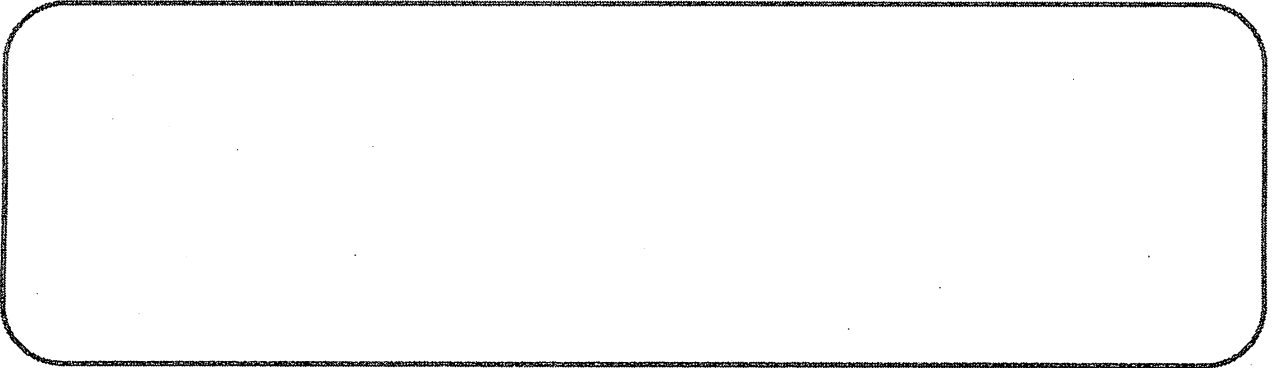
道徳ワークシート

～キャストの気持ちを考えよう～

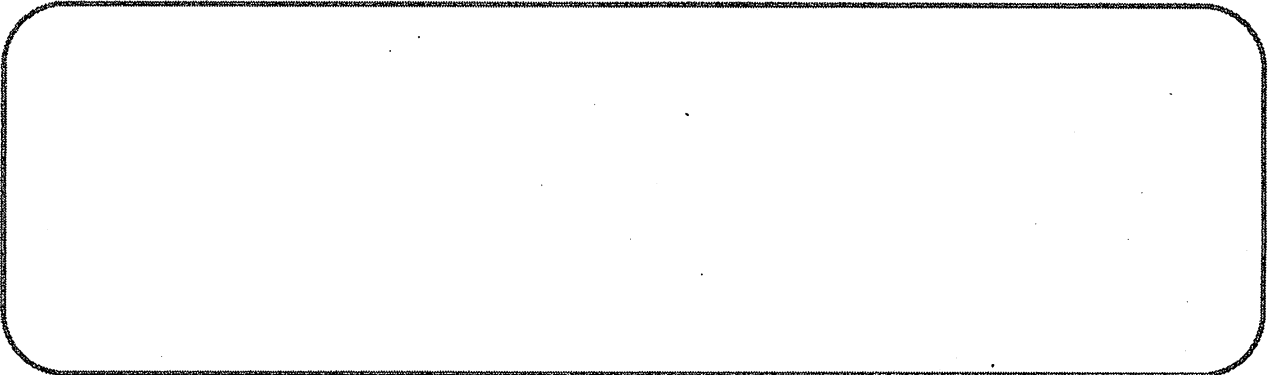
☆お子さまランチの注文を受けたとき、キャストはなぜ悩んでしまったのだろう？



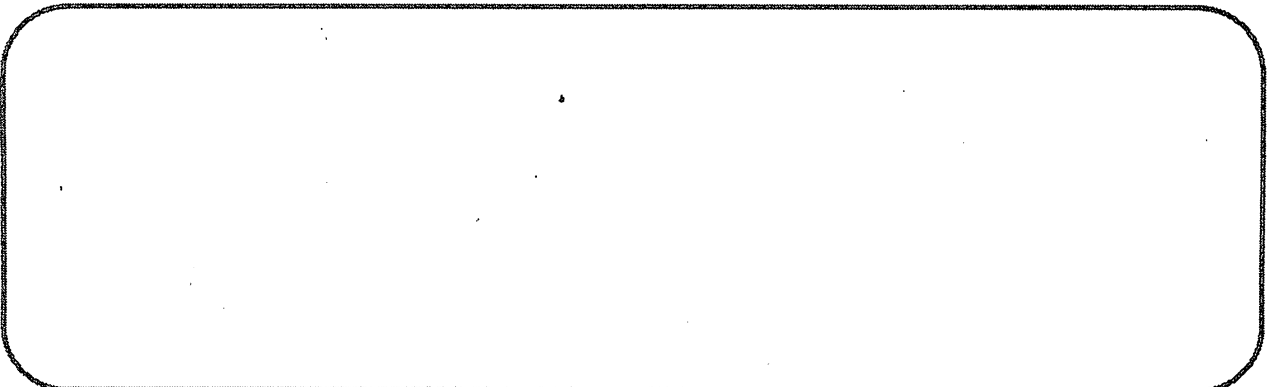
☆理由を聞いたとき、なぜ言葉につまったのだろう？



☆キャストがいつもの笑顔で声をかけたとき、何を考えたのでしょうか？



☆今日の授業で印象に残ったところは？またその理由は？



Skype を利用したキャリア教育・防災教育

さて、このたび本校では6月8日(土)に、国土交通省・近畿運輸局および第一中央汽船(株)の協力を得まして、インターネットを使ったキャリア教育、防災教育に関しての授業を行いました。また、この日は、保護者に対しての「土曜授業」の公開日にもなっており、多数の保護者の方やマスコミの方もご覧になりました。

○日時 6月8日(土) 9:50～11:40 (2・3時間目)

○場所 大阪市立昭和中学校 1階 多目的室

○授業内容

第1部は、近畿船員対策協議会会長 上窪 良和 様(第一中央船舶顧問)より、海運の重要性及び内航海運が果たす役割、や3・11東日本大震災の際に被災した硯海丸が少人数の乗組員で離岸を果たし、繰り返し到来する津波とどう戦ったのか、そしてその後、ロシア人船員を救出し、船内で手厚く保護をして無事に帰国に至らしめた苦難と功績を披露していただきました。また、講師の上窪様は外国航路の船長だったことから、外国航路についてのお話を聞くことができました。

第2部としては、Skypeによる硯海丸との交信によって硯海丸の川崎船長から、船員、船舶に関するしごとについて学習を行いました。特に、船内のいろいろな設備をカメラ搭載のパソコンを移動しながら、リアルタイムに説明をしていただいたことは、臨場感のある内容でした。

また、直接、川崎船長から、東日本大震災当時のお話を聞かせていただいたことは、生徒を始め、会場にいた全員が、その苦難と功績について深く心に刻むことになりました。

○その他

本校では、6年前よりインターネットを使ったテレビ会議を行っております。多数の高校の本校卒業生と本校3年生による交流学习を行いました。長池小学校の協力を得て、テレビ会議を利用した出前授業にも取り組みました。また、昨年度は、技術・家庭科でシャープ(株)の協力を得て、天理の中央研究所と本校をつないで、直接、シャープの研究者の講義を受けることができました。



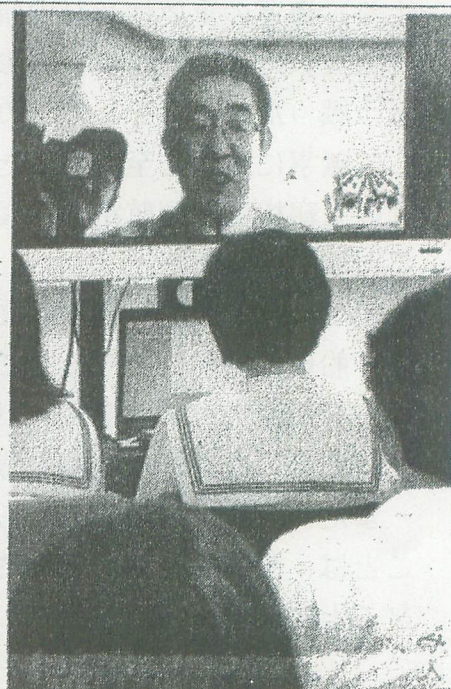
4月5日 橋下徹大阪市長へのインタビュー

船の仕事や被災体験

宮城停泊の貨物船船長

テレビ電話で中学生に紹介

宮城県の港に停泊する国内貨物船の船長と中学生がテレビ電話でやりとりする授業が8日、大阪市阿倍野区の



インターネットを活用したテレビ電話を通して生徒と話をする川崎船長=8日午前、大阪市阿倍野区

市立昭和中で開かれ、生徒らは船員の仕事について理解を深めた。近畿運輸局によると、IT教育に関心を示す橋下徹大阪市長の要望を受け、インターネットを活用したテレビ電話の職業指導講座として同局らが初めて企画。3年生約60人や保護者が参加した。国内貨物船「硯海丸」は、セメントを運ぶ全長114・8メートルの内航船。東日本大震災の際、岩手県・大船渡港で被災したものの、急ぎよ離岸して被害を最小限に抑え、座礁したロシア船の乗組員を保護するなどしの防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞している。

授業では、仙台港に停泊中の硯海丸から川崎直喜船長が船内を紹介。震災の体験にも触れ、有事の際は「まず落ち着くことが大事」と強調、また「日ごろから乗組員との意思疎

通が大事。皆さんも友達とのコミュニケーションを大切に」と呼び掛けていた。生徒らは船員の仕事や生活について質問。「船員になってよかったか」との問いに川崎船長は「人の役に立っていると感じることがあり、なつてよかった」と答えていた。